



歴史遺産の宝箱 エジプト・アラブ共和国

面積	100 万平方キロメートル(日本の約 2.6 倍)
人口	7,257 万人(2006 年人口調査、但し在外エジプト人は除く)
首都	カイロ
言語	アラビア語(公用語)、都市部では英語も通用
宗教	イスラム教、キリスト教(コプト教、人口の約 1 割)
通貨	通貨単位:エジプト・ポンド(LE)とピアストル(PT)
在留邦人数	904 人(2007 年 4 月現在)
在日当該国人数	1,366 人(2005 年 12 月現在)

(外務省 HP より抜粋)

【砂漠の国】

国土の 9 割以上は砂漠地帯です。雨がほとんど降らず乾燥しており、夏は特に、昼間と夜間の気温の差が激しい気候です。砂漠を南北に流れるナイル川に沿った地帯は緑豊かで、下流に広がるデルタ地帯は農作地帯です。このナイル川は、昔は氾濫して大きな被害を及ぼしたりしました。1970 年代に入ると、人造湖のナセル湖やアスワンハイダムが造られ、洪水を防ぐことができるようになりました。カイロなどの大都市では、高速道路があり、地下鉄も走っています。高層アパートに住んでいる人も多く、近代的な暮らしをしている人々が大勢います。



カイロの町並み

【断食月、ラマダン】



モハメド・アリ・モスク

人口の約 90%がイスラム教徒です。イスラム教の教えが生活の基本になっていて、金曜日は礼拝の日。カイロの旧市街には、モハメド・アリ・モスクをはじめ、300 以上のモスクがあります。イスラム暦第 9 月(2007 年は 9 月 13 日から 10 月 12 日まで)をラマダンと呼び、約 1 か月間、イスラム教徒は日の出から日没まで、いっさい、食べ物を口にしてはいけません。食事だけでなく、紅茶、タバコなども日中は断つそうです。この断食はイスラム教徒にとって大事な義務で、この間は、とりわけ神様のことを思う期間とのことです。伝統的な服装のイバーヤ(女性)、ガラベイヤ(男性)を着ている人も多くみかけます。イバーヤの下は何を着ていてもよいので、ジーンズと T シャツという女性もいます。

【エジプト料理】

「エジプト人はパン食い人」といわれるほど、パンはエジプトの人々にはかかせないものです。「アイシ(エイシ)」と呼ばれる無発酵のパンをよく食べます。これは、ベレー帽のような形の平べったいパンで、スープやシチューなどをつけてながらいただきます。ピラミッドの建設に携わった人々の給料がパンで支払われたともいわれています。



アイシ(エイシ)



ターメイヤ

エジプト料理は、トマトと香辛料をたっぷり使うのが特徴です。使われる肉は、羊、牛、鶏肉が中心です。豆料理も欠かせません。ターメイヤ(豆のコロッケ)やレンズ豆のスープ、フール・ミダンミス(そら豆の煮込み)などがあります。ほかにも、シシカバブ(羊肉の串焼き)、シャーレー(エジプトの麺)、マハシ・ハンマム(ハトの詰め物)、シヨルバト・モルヘイヤ(モロヘイヤのスープ)、タヒーナ(ごまのペースト)など、エジプト独特の料理はたくさんあります。

【スフィンクスとピラミッド】



サッカラの階段ピラミッド



ギザのピラミッド

エジプトの歴史は、はるか紀元前 5000 年から 4500 年ころから始まると考えられており、ファラオ(王様)による統治が長く行われました。エジプトと聞いて、まず思い浮かぶのがピラミッドではないでしょうか。最初に造られたと言われているのが、サッカラにある階段ピラミッド(ジョセル王のピラミッド)です。その後、ダハシュールの屈折ピラミッド(スネフェル王のピラミッド)、三大ピラミッドで有名なギザのクフ王、カフラー王、メンカウラー王のピラミッドが、今から 4500 年以上も前の古王国時代に造られました。100 を超える、大小さまざまなピラミッドがありますが、何のために造られたかなど、謎につつまれています。

テーベ(現在のルクソール)には、歴代のファラオや黄金のマスクで知られるツタンカーメンの墓がある王家の谷をはじめ、カルナック神殿、ルクソール神殿といった大規模な建造物などがあります。そのほか、アスワンのイシス神殿、アブシンベルのラムセス 2 世神殿など、巨大な遺跡が本当にたくさんあり、まだ砂の下に眠っている遺跡も多くあるのでは、といわれています。



ルクソール神殿



アブシンベルの大神殿

【スーク(市場)】

エジプトの都市には、あちこちにスーク(市場)があります。迷路のような通りに、飲食店、手工芸品店、食料品店などさまざまな店が並んでいます。多いのは、八百屋やくだもの屋です。野菜やくだものが、山盛りとなって売られています。屋台もあり、焼きいもや、ハトの肉を使った焼き鳥なども売られています。



ハーン・アルハリリー市場

【アラビア語】

エジプト人が話す言葉はアラビア語です。このアラビア語は、話し言葉と書き言葉が違います。正式の書き言葉は、フスハといい、新聞や本はこのフスハで書かれています。ふだん話す言葉は、アンミーヤといわれ、テレビやラジオで聞くのもこの言葉です。アラビア語は、右から左へと書いていくのが特徴ですが、数字だけは左から書きます。

簡単な挨拶

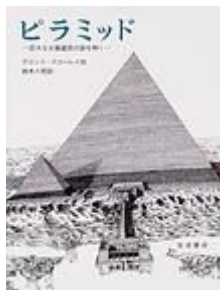
はい	<small>ムアナ</small> 	ナアム
いいえ	<small>ラ</small> 	ラー
おはようございます	<small>ルイハ・ル ハーバサ</small> 	サバーハ ル・ハイル
こんにちは	<small>ムクイラア ムーラサッア</small> 	アッサラーム アライクム
さようなら	<small>マーラサ ッアマ</small> 	マアッ サラーマ
ありがとう	<small>ンラクユシ</small> 	シュ克蘭

ようこそ	<small>ンラハサ ワ ンラハア</small> أملاً و سهلاً	アハラン ワ サハラン
ごめんなさい	<small>フイスーア ナア</small> أنا آسف	アナ アースイフ
ごきげんいかが？	<small>カルーハ アファイカ</small> كيف حالك ؟	カイファ ハールカ
元気です	<small>ルイハビ ナア</small> أنا بخير	アナ ビハイル
私の名前はムハンマドです	<small>ドマンハム ーミスイ</small> إسمي محمد	イスミー ムハンマド

※右から左に読みます。

本で「エジプト」を知る

(名古屋国際センター 蔵書より)



エジプト 5000年をゆく(1) ファラオの眠る谷

ファラオの眠る谷、デル・エル・バハリ、ファラオの谷をゆく
ネクロポリスを語る。

エジプト 5000年をゆく(2) 神秘の都・テーベ

カルナック・アメン大神殿、ルクソール神殿、近郊の神殿
古代エジプト人の生活

エジプト 5000年をゆく(4) 魅るツタンカーメン

ツタンカーメンの遺宝、少年王の生と死、ツタンカーメンの時代
王家の谷の発掘と発見、古代エジプトの神々と心の世界。

エジプト 5000年をゆく(5) エジプトの全遺跡

ナイルと遺跡、エジプトの5000年、
(エジプト5000年をゆくシリーズ、吉村作治監修、日本テレビ放送網発行)

エジプト 古代への旅

鈴木まどか(文) 石田光於(絵)
王家の谷、ナイル川、古代エジプト人と暮らし、墓の内部、

ザ・ピラミッド

日本テレビドキュメントシリーズ
木曜スペシャル ピラミッド再現計画 砂と汗の60日間

エジプトの古代遺跡

大判写真集 デルタ地帯、カイロ周辺、中部、ルクソール、アスワン

ピラミッド - 巨大な王墓建設の謎と解く-

マコーレイの本シリーズ
建築学上の調査をもとに、ピラミッド建設のひとつひとつの過程を解き明かす。

エジプトーヘロドスの旅した国

「エジプトはナイルの賜物」という言葉を残し、“歴史の父”

と言われたヘロドトス。二千数百年前のエジプト、ヘロドトスの歴史観、世界観の大きさ。

サダト暗殺—孤独な「ファラオ」の悲劇

アラブ世界のリーダー、欧米社会と世界のマスコミ界のスーパースターだったサダト大統領の生命と業績に終止符を打つ弾丸が発射された1981年10月6日

イスラム世界とコプト文化

2000年前の幼きイエズスのエジプト避難、そして現代エジプトを率いる指導者が凶弾に倒れた。背後にイスラムとコプトの抜きがたい対立が……。

コーランの声が聞こえる

下重暁子 私のカイロ日記。1977年5月から11月までエジプト、カイロに滞在

エジプトつれづれならめまき—カイロ閑人日記

夫のカイロ赴任で過ごしたエジプト、猫も一緒に。観光旅行では味わえない深いふか〜い人生の示唆。
私の経験した究極のとほほ生活。

ファラオの階段 マルカタ遺跡の発掘

エジプト調査発掘、マルカタ彩色階段を発掘、発見の現場から。古代エジプトの経済生活、古代オリエント農耕牧畜経済、灌漑問題。エジプト史話。川村喜一の業績の一端をまとめた。

エジプトミイラの話

M.M.ペイス著 女王ヘテフェレスのミイラを求めて、いかにしてミイラは造られたか、墓—その建設者と略奪者、ツタンカーメンの黄金ミイラ、これからのミイラ学。

エジプト学夜話

多彩な展開、エジプト学夜話 26話。酒井傳六著。

謎の民 ヒクノス—失われた民族の足跡を追う

古代エジプト史の中で最も繁栄の時代であった中王国の時代に突如出現してエジプトを支配した外来民族、異邦人「ヒクソク」とは、何か。酒井傳六著。

黄金の仮面

黄金のマスクをかぶったミイラ、古代エジプトの少年王「ツタンカーメン」の素顔を覗こう。

エジプト 転換期の国家と社会

1970年代以降、対外政策・公共政策を転換させてきたエジプトを
経済政策、福祉政策、対外政策の分野に焦点をあて考察。
人口の大多数がモスリム、イスラム暦がなおも人びとの生活で
重要な位置を占めるエジプト。

エジプト その過去・現在・未来

国家評議会議長 ムハンマド・アブドル・カーディル・ハーテム著

エジプト国内各地域の具体的詳細な記述と豊富な最新データ、
エジプトの国政に携わった実績を持つ著者

キッシンジャーとサダトとソ連 十月戦争と超大国

ナセル時代、サダト、ソ連。湾岸での米ソ対立、アラブ統一戦線、パレスチナ問題

エジプトの現代政治

中東地域政治とエジプト、ムスリム・コプト関係、エジプト中央・地方関係

私のエジプト交易フラン

モロヘイヤの商品化、合弁会社づくり。エジプトの会社法・投資法。

ナイルの新しい風 平和時代のエジプト

1979年3月26日午後9時、ホワイトハウス北庭でのイスラエルーエジプト平和条約
調印式、カイロのスークで、テレビに映るサダト大統領。平和を握りしめた瞬間だった

ファラオの食卓 古代エジプト食物語

ファラオや庶民は何を食べていたのだろうか。視座を移すと、歴史が語り始める
「余は毎日ケーキを、ワインを、肉や鳥のローストを……」ラムセス三世の遺文

古代エジプト人 その神々と生活

古代エジプト人の宗教思想、慣習に関する研究

クレオパトラ物語 エジプト女王秘話

西洋古代の最も著名な女王の数奇な運命を世界史的時代と広大な空間との中に
据えた史伝、歴史小説

伝説の王妃 ネフェルティティ

謎に包まれた数奇な運命とその生涯。ベルリンのエジプト美術館に保存されている
ネフェルティティの像には左眼がない。そこにこの美しい王妃の波乱に満ちた生涯の謎が！

エジプト古王国

人類定住のはじまり、王朝時代、古拙時代、古王国の建築、彫刻、文明

太陽に一番近い国 エジプト7千年の知恵

エジプト人学者が日本人読者を意識しながら書いた古代史。古代エジプト文化、絵画、彫刻
文学、建築、宗教、倫理までをも一冊に大胆にまとめる

ラムセス二世 エジプト最大のファラオ

新王朝時代紀元前1314年から1224年まで90年間生き、在位67年間、多くの女性を愛し、
150人以上のこどもをもうけた文字通りエジプト最大のファラオ

古代エジプトへの旅

IWANAMI GRAPHICS 写真集

エジプト考古学

とりわけエジプトの考古学は、ロマンとドラマに豊かに彩られている。ブリティッシュ・
ミュージアム職員であるエジプト学者ジェイムズ氏がその世界をみごとに描く

エジプト一目で見る世界の国々

国土、歴史と政治、人びとの暮らしと文化、経済

きみにもできる国際交流—エジプト

ようこそエジプトへ、日本でみつけたエジプト、もっと知りたいエジプト、世界のことばをおぼえよう アラビア語

エジプトの暮らし

日本の子どもたちがみた、コーランとピラミッドの国

エジプトの子どもたち—世界の子どもたちはいま

ようこそエジプトへ、学校のこと(時間割、登校と朝礼、軽食とお昼休み……)、わたしの街

エジプトの中学生

公立中学、私立中学、男子校・女子校、宗教と生活(イスラム教徒のための校内のお祈り室)

読んで旅する世界の歴史と文化 エジプト

古代からの伝統を軸に、アラブ・イスラームの普遍的世界とナイル河畔の住民のエジプト的個性を追求する

エジプトの神話伝説

世界文明揺籃の地、エジプト、エジプト人の間に語り伝えられた伝説、神話

エジプトの神話—兄弟神のあらそい

世界と神々の創造—ファラオ時代の伝承、コプト時代の伝承、太陽神

地球たべもの大百科 エジプト 豆料理

エジプトの人は何千年も前からいろいろな豆を料理につかっています、どんな豆をどんな料理に、豆は結婚式のそなえもの

Atlas de l'Egypte Ancienne

Egypt and the Holy Land in Historic Photographs

77 Views

The Public Diary of President SADAT

Part One: The Road to War

Part Two: The Road to Diplomacy

Part Three; The Road to Pragmatism

Ancient Egypt - Discovering its Splendors

Ancient Egyptian Designs for Artists and Craftspeople

Aswan-Kalabscha Philae Abu Simbel

Valley of the Kings

Abydos-Esna-Edfu Komombo-Aswan-Kalabscha Philae-Ab Simbel

Eternalle Egypte

Atlas of Ancient Egypt

Egypt The Eternal Smile Reflections on a Journey

Egyptian Art in the Days of the Pharaohs 3100-320 BC

Egypt – The Arab Republic of Egypt, Ministry of Information State, State Information Service

A Complete Guide to Egypt and the Archaeological Sites

Practical information on hotels, food, shopping and customs-plus of

Egyptian history and mythology

Everday Life in Egypt - in the Days of Rameses the Great

Islamic Roots of Capitalism: Egypt 1760-1840

Egypt in the reign of Muhammad Ali

The Egypt of Nasser and Sadat - The Political Economy of Two Regimes

地球の歩き方 エジプト

EGYPT - Lonely Planet series